

## 平成24年度 第1回福島町まちづくり推進会議

|      |   |       |         |       |
|------|---|-------|---------|-------|
| 開催日  | 平成24年8月29日（水） 開会午後6時～                         |       |         |       |
| 出席者  | 阿部国雄、中塚徹朗、平沼竜平、河原塚利雄、菊池謹一、枝松豊、金澤富士子、金谷由美子、山名連 |       |         |       |
| 町関係者 | 町 長   | 佐藤 卓也 | 副 町 長   | 竹下 泰弘 |
|      | 総 務 課 長                                       | 中島 和俊 | 企画G課長補佐 | 住吉 英之 |
|      | 企 画 G 主 任                                     | 中塚 雅史 |         |       |

（開会6：00時）

### ○事務局

皆さんどうも暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。まちづくり推進会議の委員の皆様につきましては、色々ご足労いただいている状況にありまして、本当にありがとうございます。

今日は、行政評価ということで、評価の方を町民目線で町がやった事業について、評価をお願いしたいということで、皆様にお集まりいただいたところでございます。

冒頭に、今日は新しくなりました佐藤町長が見えてございますので、町長の方からまず挨拶をお願いしたいと思います。

### ○佐藤町長

皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。月曜日から町長とさせていただきます、まだまだ町長をやったことがありません、新米の町長でございますので、皆様の力をお借りしないとこの会議は進めることができません。今日の会

議なんですけれども、行政評価による外部評価ということで、町民の目線で、町民の感覚で評価していただきたい。それと今後、定住少子化対策プロジェクト、町民フォーラムとの合同会議もありますので、皆さんに大変お忙しい思いをさせるかもしれませんが、何卒ご協力をお願いしたいと思っております。

皆様のご協力をいただいている福島町ということですので、ぜひともよろしくお願いしたいと思います。私の方では、まだ十分にこのまちづくり推進会議の方の把握をしていませんけれども、全力で参加させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

### ○事務局

今日の会議の進め方なんですけれども、いつもであれば会長さんの方に仕切りをしていただいているところであるんですけれども、会長さんの方からも色々意見があれば、意

見をいただきたいというようなことも考えてございますので、今日は事務局の方で会議を進めさせていただきたいと思います。

議案をめぐっていただいて、P1でございますけれども、担当課による行政評価、1次評価を終えたそのものを町内の評価委員会、町長、副町長を筆頭に、教育長、全課長による2次評価をしてございます。その、2次評価に基づいて、今後外部評価、第3次評価というのをさせていただきたいと思えます。

2次評価の結果についてでございますけれども、町の行政評価の目的については、「住民満足度の向上」と「財政健全化」の2点を目指して評価をしてございます。

この評価制度なんですけれども、平成22年度から施行しております、今年度においても各グループで自己評価した20件の事務事業を庁内評価委員会において、2次評価を実施してございます。

ただ今言ったように、当初25件ということだったんですけれども、教育委員会部局の事業につきましては、それを除いてございます。

各評価の結果につきましては、別紙のとおりということで、もう一枚めぐっていただいて、最後の方に行政評価結果表という一覧が付いているかと思えますけれども、この右端の方にいくと2次評価まで終わっているということになります。

今日は、その横の3次評価を皆さん

にさせていただくという状況になってございます。

この中で、1次評価から結果が異なった事業ということで、5番目の戦没者追悼式事業費につきましては、担当課のシートによる評価がBだったんですけれども、それを担当課の段階においてAに直して、最終的に2次評価としてBになったと。1次評価のA評価からB評価になった、とこういう事業が1件ございます。

あとの事業につきましては、1次評価の事業と、2次評価がすべてイコールでした、というような状況になってございます。

3番目の外部評価（第3次評価）について、ということでございますけれども、外部評価とは行政が行っている様々な事業について「どの程度の成果・効果を上げたか」、「少ないコストで期待した効果が得られたか」、そもそも「町が実施する事業か」、それと「社会情勢、住民ニーズに適った事業か」などの視点から事業を町民の目線で評価をしていただくというのが、3次評価ということになってございます。

その外部評価の視点というようなことなんですけれども、町で評価した20件の事務事業について、1事業毎に評価をしていただきたいということでございます。

評価にあたっては、平成23年度に実施した内容について確認して、事務事業評価に沿って実施内容が適切かつ正確に評価されているかについて

外部評価を行っていただきたいというところでございます。

その、視点についてなんですけれども、まずは①事業の目的が明確に記載されているかどうか。②法的根拠や実施主体が適切に記載されているかどうか。③必要性や有効性が正しく評価されているか。④達成度の活動指標が達成度を実現する指標となっているか。⑤達成度の活動指標が分かりやすく数値化されているか。⑥事業費の推移等が適切に記載されているか。⑦項目別点数による評価と1次評価（担当者評価）において妥当性がある評価となっているか。⑧1次評価及び2次評価の説明が適切に記載されているか。⑨B評価以下の事務事業の今後の改善策等が具体的に記載されているか。これらを、総合的な視点で評価をしていただく。

事務事業の相対評価について、必要性・有効性・達成度・効果性の4つの観点で、総合的かつ客観的に評価をしていただきたいというところで思っています。①現在の社会情勢から判断して、本当に住民のニーズに合致している事業なのかどうか、②活動内容の見直しによって、コスト削減や成果を上げる見込みはどこにもないのか。それと、③町が事業を休止または廃止した場合に、利用者などの住民に与える影響はないのか。④今度の方向性はどのようにしていくべきなのか。ということで、評価の方をお願いしたいと思います。

それでは、3次評価の実施というこ

とについてですけれども、まず、別冊の方の事務事業評価シート、まず1番目の住民運動対策費という事業について、評価の方をしていただければなと思います。こちらにつきましては、事業の概要なんですけれども、少年問題協議会の開催、それとコミュニティ運動推進協議会、それと松前地区防犯協会の2団体へ助成をしているというところでございます。青少年問題協議会につきましては、年1回の開催として関係者が集まって、青少年非行の現状や各学校の現状の話し合いをおこなってございます。コミュニティ運動につきましては、そこに助成をしてその中でコミュニティ運動推進協議会の方で、花いっぱい運動などそういったものをやっているということになります。

あと、松前地区防犯協会へは活動費の助成をおこなっているというようなところでございます。

P2目にいっていただきまして、1次評価がA、2次評価につきましてもA評価としまして、現状にて事業を継続というような結果になってございます。

○委員

すいません。質問いいですか？この今回の評価も去年と同様にこの23年度単体の評価という形でいいんですか？

というのは、今年でこれ3年目ですよ？当初3年やったらとりあえず事業見直しもそうだけれども、この評価シートの見直しもしますよってデ

一タをまとめて、今後続けていくかどうかの事業を検討しますよということ saying it. Now, here, what you do is the same as last year, 2 or 3 years ago, just the part you did?

○事務局

はい、部分に対してとその今後。例えば、もう少し改善性があるのではないかなというような評価があれば、そのような意見をいただきたいなというところなんです。

○委員

そこまでですよ。3年間見て、例えばAからBに上がった、CからBに上がったんだけど、この事業はどうするこうするということまでは考えられないということですよね。

そういう段取りでいいんですね？

○事務局

今、意見があったんですけども、この単体の事業の部分を昨年度こういった形で、町でやってございますので、それを基に色々な意見があれば付していただきたいと思います。今後もう少しこれは拡充する必要があるだとか、例えばもうこれはその目標を達したので縮小して行って、将来的にはどうしていったらいいのかというような形の物であれば、現状を踏まえて、そういった意見をいただきたいなという感じはしていますので。

○委員

去年の評価はこの項目はやったっけ？

○事務局

ちょっと課題があるんですけど

も、毎年同じやつをやって、現状と変わらない部分というのがあるかと思うんですよ。それを、毎年同じものをやるのがいいのかどうなのか、3年前にやったやつを3年後にまた評価して、期間がありますので、3年ないし4年を1サイクルで、その事業をまた見直しするというようなやり方がどうなのか、というようなことで、前に120いくつあったやつを3年かけて一回りしましょうという形にしたんですよ。ですから、今回やるのは初めてです。また、今後のやり方を我々もちょっと考えていかなければならないんですけども、そういった方式がいいのか、毎年同じ事業を評価すると。そうすると、120いくつのうちから絞った形のものになっていましたので、それ相当の数をこなしていくような感じになるのか。

どういったやり方がいいのかということは、その辺はまた考えなければならぬなという感じはしています。

今回施行の中では、3年サイクルで1つのものを回していこうと考えてやっていますので、これは今回やるのが初めてです。皆さんに評価をお願いして3回目でこれをやるのは、すべての事業が今回初めての事業です。

1番目の事業について、項目別点数がA、担当課の評価もAということで、現状のままで事業を継続したいというような評価になってございます。2次評価につきましては、そういう評価になってございます。

○委員

これは、3次評価ABCで今日全部決めてしまうの？

○事務局

20までいきたいと思います。これはぜひ言っておきたいというようなものがあれば。

それで、うちの2次評価の時にも議論をしたんですけども、一覧の方を見ていただいて、項目別点数評価と、担当課の評価で異なっているところを中心に議論をしたということなんですよ。

○委員

前回はそうでしたよ。Bランクからやりましょうという話なんですよ。

○事務局

それであれば5番の、ページでいうとP9ですね。

戦没者追悼式事業費ということで、これにつきましては、毎年7月14日を目途というか、それで戦没追悼者式典ということで、町で主催している事業でございます。毎年、出席する遺族の方も少なくなってきていてですね、そういったことで、見直しも必要なのではないかということで、現場の方も悩んだというところで、2次評価につきましてもあった意見が、例えば戦没者の方だけの式典ということではなく、町民全体で戦争を考えるだとか、平和的なものも考えるような形のものにしていったらいいのではないかと、というような意見があって、2次評価としては、事業規模の見直しなど色々そういった改善も必要なのではないかというようなことで、A評価からB

評価になったということですね。今遺族会自体が1つになったので、前は吉岡と福島は分かれていて、それが1つになって継続をしているという形で、遺族の方の話を聞いても、やはり高齢にもなってきていて、出席したくても出席もちょっとかなわないという声も聞きますし。

○委員

これやらなきゃどうだという話になれば、やらないよりはやった方がいいんだよ。ただ、それにかかる金額というのは必ず発生するでしょ。それに対して、ここの達成度とか効果性というのが、1ということになったけど、じゃあこれだけの金額をかけてどうだという話に最終的になると思うんだよ。お金が全然かかってないんだったらやってくださいという話なんだけれども。

○事務局

コストのところも考えていただければ、今おっしゃったようなことになるわけです。だけれども、それを兼ね合いして、将来的にじゃあどうなのという意見がもしあれば、そういった意見をいただきたいなという気がしております。

○委員

だいたい、どのくらいの参加人数なんですか？

○事務局

64人です。P9のところの(3)の手段のところを書いてあるんですけども、64人ですね。

○委員

それはほぼ皆、自分の足で来れる人  
なんですか？

○事務局

町でバスを出しています。

○委員

戦没者は、言い方はちょっと古いかもしれませんが、国のために亡くなった方を追悼するわけだから、規模縮小を考えてもいいかも分からないけれども、あくまでも純粋に戦没者を追悼していくんだよということになるのであれば、これは経費がかかるからやるとかやらないとかいう話にはなっていないと思うんだよね。

だから、できることならB評価に落ちた理由と言うので、改善点は色々あるというんだけど、戦没者という町の戦没者の神社とか、都会でいうと靖国神社みたいなところというのはないので、ちょっと古いかも分かりませんが、できるならば継続して、BだろうがCになろうがやっていくべきではないかと思うんだけどね。

○事務局

今、対象としている戦没者の遺族というのは151名ということで、参加されている方は46名ということでもありますけれども。

○委員

代わりになる、例えば平和を考える会とか、戦争を考える会とかというのが例えばできたとして、その経緯をみてじゃあ一緒にしようかというのなら分かるけれども、こっちを無くして、新しいのを立ち上げようというのはやっぱり不安ですよ。今までこれで

やっているのであれば、例えばB評価であろうが、それはやるべきものではないかなと。全然趣旨が違うから。

○副町長

これは、7月14日にしているというのは、戦艦やなぎがちょうど福島の沖で沈没したという部分があるんですね。ですから、普通は7月15日にやるんですけども、福島町がずっと14日にやっているのはそこにあるんですけども、その慰霊も含めてやっているんですよ。そういう部分も含めて、議論はあったんですけども、今皆さんおっしゃるように、まずは今高齢化といっても、確かに事務局が今説明したように、吉岡・福島の遺族会は隔てがなく、3年くらい前から一本にしてありますので。

まあ、あとは金の問題か気持ちの問題かというのがありますけれどもね。

○委員

気持ちの問題は、皆さんの言うように分かるんですよ。それで今我々として、例えばP10で3次評価がBに出たとしますか。Bに出ると、廃止・統合・縮小とこうなっているんですけども、ここの部分は誰が決めるんですか。

○事務局

評価のところにつきましては、D評価になった場合に、D評価であれば、事業の根本的見直しの検討というようなことで評価しますので。

じゃあその見直しの検討はどういう方向に持っていくんですかと、これは廃止の方向に持っていきましよう

とか。

○委員

Bになると、廃止・統合・縮小と3項目あるでしょ。これについての、決まりは誰が決めるんですかということですよ。

○事務局

ここの、廃止・統合・縮小・凍結だとかっていうところについては、D評価になった時の場合なんですよ。例えば、Bの部分で事業の進め方の改善・検討が必要というようなことになると、ここでもし具体的な意見が出れば、そのものを書きたいなと思いますし、そこまでいかないですけども、何らかのその改善が必要だというようなことであれば、B評価にさせていただいて、そのような意見でもよろしいですし、例えば当面は継続するだとか、このまま継続して行って、将来は改善というか、そういったものが必要だという意見があれば、そういうような形にしていきたいなと思います。

○委員

実際に戦没者だとか、そういったものを点数で評価するというのが俺はいかなものかと思う。だから、これがAだろうがBだろうがCだろうが、これは先祖を大事にするという気持ち、そういったものから生まれてくるものであるだろうし、当然これは戦争で亡くなった方の追悼であるので、点数でやること自体が俺はどうなのかと思っているけれども、できることであればBになろうがCになろうがそれはそのまま続けて行ってほしいと

思います。縮小するのは、仕方ないとは思っただけけれども。こういうものは点数でやるものではないと思いますので。

○委員

ただ、こういうふうにしてそういうのができている以上は、それは勘弁してください。

○委員

当然、お金を出しているんだから点数で評価しなければ駄目なんだろうけれども、それを越えた以上でBだろうがCだろうがそのまま続けて行ってほしいと。点数で評価は出るけれども、それであるものではないのではないかなという意見です。

○委員

今、皆さんの意見を聞いていると、だいたい横ばいでいくという感じだよな。最終的に、仮に3次評価がBであっても、今となんら変わらないような状態だということですよ。事業の進め方の改善・検討が必要とは書いているけれども、それじゃあ〇〇さんが言ったような型を入れれば、そんなに改善のしようがないということだよ。この件に関してはね。

○委員

私個人の意見ですが、そういうふうな考えです。

○委員

同じ文面ですから、Bだとか改善だとか検討だとかあるけど、ものによってはちょっと違うのもありますね。これ、一律皆同じタイプだけれども、僕は親も誰も戦没者いないですし、兄弟

もないから分からないんだけど、だいたいその戦没者の追悼式に出たことがないのね。だから、ああでもないこうでもないと言えないんだけど、例えば毎年出て、やっぱりここはこういうふうに変えたほうがいいのではないかとか、そのためにはお金がかかるねとか、もう少し簡素にしたらお金がかからないとか、そういうふう当事者ではないものですから、意見は言えないんですけども、その辺がどういう雰囲気でどういうふうになっているか、役場の職員さんは毎年出ているから、その辺のことはよく分かるんだろうけど。

○副町長

この20の事業を今セレクトしたんですけども、やはりなじまないものもあるんですね、この評価に。それはこの前の話にも出たんですが、今回は20項目評価してもらったので、この次のやる分については、まずそういう部分からどういう事業を選んでいくかというのを基本的に、今色々なものがありますけれども、そういう評価に値しないものもあるんですよ。シートを作ると、それに沿って評価していくということになりますので。

○委員

冒頭聞いたように、3年間やってデータをとるよという前節があるものだから、だまっているんですけども、教育委員会でもそうですよ。合わないでしょ、この様式は結構あるんですよ。だけど3年間データをとって、その事業の是非を問うという前提があるん

だから、この評価シートにのっかって討議しましょうというので、ああそうですかという形になるだけの話であって。

○副町長

今度は選ぶ時に少し検討していかなければならないですね。議論をされても確かに感情論から言うと、やっぱりこういうものは金の問題ではないから、お国のために尽くしてくれたという思いもあれば、それは20万、30万かかってもやらなければならないのは、やらなければならないかなと。そこも評価すると、どうかなという意見もあるんです。

○委員

そこまで言ってしまうと、ここにある必要性だとか有効性のような文章を書いているけれども、じゃああなた方常識的に判断してくれないかということになってしまうんですよ。

○委員

ただ、他の事業の方でもありますけれども、補助として出しているあれが何件かありますよね。

○委員

それは、国の補助があるの？

○委員

町の方から補助として金額を出しているものがあるんですよ。それが、活動しているからというようなので、毎年お金を出している部分があるわけですよ。出す、出さないではなくて、出した先でそれがきちんと処理されているかどうかというのも、事業としては見ていかなければいけない部分では



あるんじゃないかなと思うんです。

○委員

例えば、ある団体があってそこに子供たちが行っているから、毎年補助を出しますよ、何年間補助を出してきましたよというんだけど、じゃあその金額というのは適正なの？という部分も当然出てくるわけですよ。教育委員会であれば子どもの人数が減ってきているわけですから。であれば、かかる経費はかかる経費で、もう一度検討をし直す部分があるのではないの？毎年同じ金額補助を出しているけれども、はたしてそれが正規に使われているのというところまで見ていかないと補助を出す意味というのは、何だろうというのは個人的には感じますけどもね。

○委員

具体的に分かりやすく今言っただけでも、他の部分もそれは当然当てはまる。

○委員

今までは、確かに事業もやってきた何もやってきている、だから町として補助しましょう、町として助成しましょう、それはよかったんです。だけど、人口も環境も変化しているんですから、だからそれに対して去年も出したから今年も出すよではなくて、はたして本当にその金額をきちっと評価しているのかどうかというのを、出す側として検討しなければならない時期に来ているのではないかなということです。

○委員

ちょっと聞いていいですか。今の話の中で、当然予算要求をする時には、前年度の部分はすべてこうやりました、こう使いましたとやっているんですよ。そういったものを添付した中で、確かに適正に使われているから今年の分も出しましょうというようなことかい？

○委員

補助金は審査する際には、例えば、団体に補助を交付しているのに交付している額より繰越金が多いだとかというふうになると、それは補助金じゃないでしょという話ですよ。それはきちんと今言ったように、施策した中で補助金交付決定ということで町では決めていますので、それは今そのとおりにしています。長年そのやって来たものに対して、もう少しやり方によってはコストが削減できるものがあれば、そのような形もありますよねということで、例えば補助金を減額、その見直しをした結果やるという場合もあると思います。

○委員

それは、事務的な段階で確かやっているはずだよ。だからそれを、ここで多いのではないか、少ないのではないかというのはちょっと難しいと思うんだけどね。

○事務局

今後の戦没追悼式については、全くの町主催というような形でありまして。

○委員

戦没者の話は、今話をしたのでそれ

は納得したんです。それ以外の部分で、町として補助を出している団体の詳細というか、疑うわけではないけれども、きちんとした活動をしているの？という部分をやはり見ていかないと。

○委員

まちづくり推進委員会の時に、新年度予算を全部チェックするじゃない、僕は何回も見ているのではなくて、新年度の予算の時にこれが全部上がっているんだよね。これを一応全部やっているわけですから、頭の中では分かっているのさ、俺達はその時にやっているわけですから。だからそこで今の意見をやっていると、延々何日もかからなければならないんですよ。お金に関するところが160項目くらいあるわけですから。そうすると、今ここでそれが頭の中にあるということで、そして評価になっているわけですよ。だから、元に戻った話をすると、あなたがたこの委員じゃないのということになっちゃうから、その辺はちょっとね。

○委員

たまたま、戦没者のやつでそういうやつは減らせないな、このままやらなければ駄目だというやつと、まず対象的な部分を〇〇委員がこういうのがあるから、そういうのは見直しの部分に当てはまるのではないかという、ただそういう意味。一般論の話だよ。そこまで深く追求することではない。

○委員

今度、新年度の予算が出てもおそらくまた出てきますから、それが評価に

なるわけですから、その時に意見を色々出したほうがいいですね。

○委員

ただ、それを決めていかないとさっき言ったように、去年もA評価だから今年もA評価で、はいこのままの予算よというふうに行くから何もコストの削減にはならないんですよ。

○事務局

事業の継続ということであれば、評価的にはAということになるのかなとは思っていますよ。

○委員

点数で評価できないんだから、俺個人としてはA評価に戻した中で、やってほしいんです。

○委員

必要性と有効性については、4点あるわけですから、ぎりぎり横の欄としてはようするに、必要性があるということになるんだけど、達成度と効果性が2ですから、だからBランクの方に入っちゃっているわけですよ、今皆さんの意見を聞くと、それはそれだと。けどこれはちょっと特殊だから、Bであろうがなんであろうが、やっぱり進めていくべきだということ考えなんですよ。

○委員

達成度は64名に対して達成度というの？

○事務局

達成度は、P9に戻っていただくと、達成度の3ありますよね。3のところで、下のほうで丸を付けているところがありますけれども、この点数がその

隣のページにいて、4の効果性だとか、それを単純に点数で付けていくと、達成度が1点で効果が1点で2ですよというふうなことになってこの計算どおりになるような。

○委員

方程式上Bになるのは分かるんだけども。ただ、この戦没者の家族の方だけとなっていますけれども、例えば戦争をしないようにしましょうとかいうところまでいくのであれば、学校に行っている期間でしょ7月の14日といったら。であれば中学校の生徒くらいは出席をさせるとかいうような形でいってもいいのではないかなと、個人的には思うんですけどもね。

そのくらいの年代の人達が戦争に行き、亡くなっているわけですから。

○委員

中学生とかという話も別に悪い話ではないんだけども、これは町内会長だったりとか、そういう主だった人も行ってないんでしょ？

○委員

結構来ています。私も行ってはいますけれども。

○委員

どの辺まで案内を出しているわけ？

○委員

例えば、だいたい150人招待をだしましたと。それに対して64人しかきていませんよというのであれば、どうだという話にもって行きたかっただけです。どの程度までの人数に

出しているか。

○委員

だから、相対的に何名に出してある程度の出席数があれば、40%とか、30%なら情けない話だよ。

○委員

そういうデータがほしいんですよ、そういうデータをもとに、BだねとかAだねとかいうなら分かるんだけども、それだったら本当に、戦没者の身内がいる人しか最終的には行かなくなってしまうんだよ。

○委員

私は戦没者の家族から、家族といってももう子供達は大きくなっているんですよ。父親も母親も亡くなられて、そして孫の時代のところになっているところもあるわけですよ。そういう人達はもう廃止してくれと、止めてくれという声が非常に多いんですよ。そういうことは、何件からも私聞いています。だから、それはやっぱり考えていかなければいけないと思います。

○委員

止めてくれというのはどういうことですか？

○委員

止めてくれというのは、出席がもうできないから。

○委員

出席できないから、通知はしなくてもいいですよというのは本当だけでも、その追悼もやめてくれという話？

○委員

なくしてほしいというのが、戦没者

の式典がもういらぬのではないか、  
というような意見が聞かされるん  
ですね。先ほどから皆さんが言う  
ように、継続していかれた方が  
いいのではないかなというような  
意見も出てきますけれども。

○委員

孫の代になって、例えば町内に  
住んでいない、東京だとか札幌  
に住んで招待をもらいましたと  
いって、もう出席できないから  
それを止めた方がいいって  
いうのは、別の問題であると思  
います。行けないのは、勝手な  
んだから。

○委員

もらった人は出ないのは勝手  
だし、私達は孫だから行きませ  
んというのも勝手なんだよ。現  
に64名という方が行っている  
わけだよ。自分の父親だろうが  
、もしかしたら自分の旦那さん  
かもしれないし。だから、実際  
64名が出席しているやつを、  
孫だからそういうのを止めて  
くれたとか、それはどういう  
意味合いでなるんですか？

○委員

それはちょっと待ってください。  
そういう声もあると今言っただ  
けで、私が思うのは、皆話は一  
部分では筋が通っていると思  
うの。でも、冷静に廃止する  
という話はある得なくても、縮  
小していくとか、人数も少な  
くなってきているし、高齢者  
も多いし、将来性のことを考  
えたときに何年こういう体制  
でもって行くのかなということ  
を踏まえても、悪いことでは  
ないのではと思う。今やって  
いることがいいとか悪いとか  
ということもあるけれど

も。

○委員

今俺が言いたいのは、やめて  
くれという人がいるんだろ  
うけれども、現に64名の方  
が出席している以上は、当然  
近い人達だと思うんだわ。例  
えば親、奥さん、そういった  
近い人達がその64名のうち  
何名が本当にいるのかは聞  
いてないから分からないけれ  
ども、実際そういうふうに出  
ているんです。

○委員

実際に、子供といってももう  
70代になってきているし、  
おじいちゃんおばあちゃん  
という、それを祭っている  
人達は見ている限り、聞い  
ている限りは80代の人も多  
いし、だからこれは戦争が  
終わって何十年ということ  
もちょっと考える余地はあ  
るのではないかなと、私は  
思うよ。

○委員

世間でいう、俺はこれで議  
論するつもりも何もないん  
だけれども、この戦没者追  
悼は色々な意味合いを持っ  
ているんですよ。それは、た  
だ単にその遺族のためだけ  
ではなく、子供たちがこれ  
何なの？と興味を示した  
ときに、昔戦争でこういう  
ことがあって、戦争は絶対  
にしちゃいけないものだ  
よと、説明する機会にな  
る。こんなに悲しいことが  
起きるんですよ、こんな  
に泣く人がいるんですよ、  
だからこういうことはし  
ない方がいいですよとい  
う、さっき〇〇さんが言  
ったように、こういうところ  
から、勉強していくこと  
は当然考えていくこと。今  
の現状であれば、今の評  
価は例えば、64名と

いう方が出ているんだから、廃止せずにそのままやってほしいと。

○委員

戦没者の家族だけではなく、学生さん、中学生でも、高校生でも全国的なものを見ていても、そういうふうな傾向が多いもんね。

○事務局

今、2通りの意見があると思うんです。現状維持というところと、もう一つ若干の何らかの内容の改正が必要なのかなというような意見がございますけれども。どうでしょうかね、委員の皆さん。

○委員

だから、B評価に落ちているからこういう意見を出すんですよ。無くしたくないから。

○事務局

2次評価でBとしたのが、先ほど〇〇さんが言ったような意見も中にあったんですよ。追悼の部分で、縮小はされていくでしょうから、遺族の方は少なくなっていくのが目に見えていますから、その方だけのための追悼という形のものではなくて、平和を考えるだとかそういったもので、町民を対象にしていくような形のものに考えていった方がいいよねというような意見があって、そういう意味で改正でBというような形にはなったんですよ。

○委員

ただ、冒頭にも言ったけれども、これを無くして新しく平和を考える会とか、まだ動いてもいないものに期待

はしないよということなんですよ。こういう経緯でやってきているものだからそれを継続させて、何かしら肉付けをしながらでも、継続させていくことに意味があるんじゃないかという。

○委員

今の皆の話は、とりあえずBからAに戻して継続をしてほしいというのが、結果だよ。それから、何年かたっていくごとに、今言ったような教育そういった部分も絡めた中で、存続をさせていこうというために今議論をしていると思うから、とりあえずA評価にしたほうがいいのではないかと思います。

○委員

最後はそういうふうになるわけでしょう。だから、委員会としては今これB評価となっているけれども、A評価に格上げしていいのかどうかという話に、最後はそこにいっちゃうわけですよ。そこは早く結論を出さないと、時間が勿体ないから。

○委員

だから、私はA評価にして事業を拡充して継続でいいですよ。

○委員

私もA評価へ格上げしてもいいと思いますよ。ただ、先ほど言うように、戦没者の親も兄弟もいなくなって、フェードアウトしていく部分についてシフトしていく時代、子供なんか分からないわけですから。

○事務局

〇〇さんがおっしゃる事業拡大というのはさっきの意味でということ

でいいですか？平和のそういう部分の拡充ということでもいいですか？

○委員

今、〇〇さんが言うようにシフトしていく時期だと思うんですよ。

○委員

私は、教育を絡めていくことはとっても大事だと思うんです。7月14日というのは、やっぱり逆に意味があると思うんですよ。ここで、戦争中に亡くなった人達がいる、ここでそういうことがあってということに絡めた方が、子供たちはきっと分かりやすいとか、実際に身近な人達、たどって行って身近な人。お隣のおじいちゃんかもしれないし、親戚のおじいちゃんかもしれないんですけども、そういう関係ある人達が亡くなった戦争のことと、今現実に見たら大変な国がいっぱいあるじゃないですか、逆に日本はとても、幸せでよかったという戦争だけではなくて、平和の教育に絡めて、親族の方が高齢化して亡くなっていくから、シフトなんだけれども、その人達に加えていくことってすごく大事なことになると思うので。

○事務局

じゃあ、A評価にしてですね、コメント的には戦争を考える機会が必要だと。

それと、子供たちへの平和を考える教育的な意味合いの方向へシフトをしていく必要があるというような形でコメントを付して、A評価の方にしたいと思います。

あとですね、B評価となると、P3

3の地場産業開発研究事業費ということで、これが福島町の方に地場産業開発研究所という団体がございます、そこに町の方から補助金を出してございます。その補助金につきましては、800,000円ですか、ここで何をやっているかということ、事業の目的の(2)なんですけれども、地場産品を使用した新商品の開発を図る。それと、特産品の販路拡大を図る。というようなことで2つなっているんですけども、今のところ現状は、特産品の販路拡大を図るというような部分に特科されているような状態でございます。北海道福島会の北海道フェアなんていうのが、東京に行ったりしますけれども、そういったところに商品を提供したり、といったところをやっているような状況でございます。新商品の開発につきましては、この頃はなかなかそういった事業展開がなされていないというような状況でございます。

○委員

なされていないということは、お金が使われていないということですか？

○事務局

開発のところに関しては、そういう行為がされていないという状況です。商品開発をする取り組みがなされていないという。

○委員

効果性が1点しかないんですよ。だから、全体が低いんだ。必要性はあるんだけど、そういう実行されていない

と。だからこういう評価になっているんだけれども。将来はやらなければならない。だから、新町長がね、公約で言っていたからちょうどいい機会だと思いますよ。

○委員

なくしちゃいけない事業だとは思いますが、ただ、お金が足りないの？ということなんですよ。

○委員

この、道でやるお金は費用もかかりますよ。

○事務局

今ある現状は、事務局を商工会でやられていて、現体制を役場の方は水産商工課の方で取り扱いはしていますけれども、その体制のところを見直しをしていきたいという考えもあるんです。将来的には、町の観光協会と連携をしながら事業の展開を図っていくような形のものにしたいというような考えではもっているようですよ。

○委員

当然今回二人の応援隊もこの事業には絡んでいるの？

○事務局

商工会の方でやっているの。物販だとか、というようなことになると、こちらから提供されたものに対して、売り子になってもらうという形では。

○委員

ようするに、研究会というところに補助金として出しているという。研究会の会長は誰なんですか？

○事務局

だから、このお金の多い少ないも当然そうだけれども、何かここに任せているから、もういいやという雰囲気ではないかい？ということなんです。本当に、そのくらいのレベルでいいのという。

○委員

これはね、おそらくかなり厳しい意見が出てくると思いますよ。誰がこうだではなくて、やっぱりもう少し真剣に取り組まなければいけないと思いますよ、相対的には。なんか研究しているんですか？

○委員

〇〇さんがいうように、これはなくしてはいけない事業だと思うんです、福島町を売り込むために。だから、それは必要だと思うんですけれども、それを何かこのお金を出してこの人達に任せているからもういいやというふうな捉え方をしていないかというようなことなんですよ。

○委員

研究事業費と書いてあるけれども、今説明を聞いていたら、研究というよりは、東京会とか札幌会の人に特産物を差し上げているみたいなの。

○事務局

差し上げているわけではないんですよ。

○委員

ないけれども、そういう方に使っているんでしょ。

○事務局

そうですね、今は物の販売の方にかかる分の経費が多いというような。

○委員

この間の〇〇さんがやった冷凍技術のやつを見たんですけれどもね。ああいったのはこういう中に入っているんだよね。とうもろこしの味来だとか、当然あれは開発だよ。地場産のものを開発するというようなことだけれども、そういったものもこの中でひっくるめて考えたのか、それとも、まるっきり単独で考えたのか。

○委員

あれは、単独です。

○委員

単独なんでしょ、ああいったものを本来であれば、ここでやっといたら品物的に研究費で出るんだから、当然色んなものを試すためにはお金を突っ込んで、無料提供じゃなくても出来たわけだよ。そういったものを活用して初めてこういうことができるわけですよ。

だから、何でああいうときにそういう案が出なかったのか、ただ皆ボランティアで協力をしてくれと電話があって、それはできる人とできない人がいると思うんだよ。できれば、B評価からA評価に上がってくることだよ。実際、あの時に10品目試してだよ、何品目うまうまきましたと。あったとしたらさ、そういったものをした中でどんどん活用できるように。そういったふうに活用の仕方がちょっと下手だと思うんですよ。この、形がね。

○委員

これは物販も入っているの？ 函館

駅とか、ああいうところで時々道南の町村が店を出しているけれども、そういうのにもお金がいつているの？

○事務局

はいっていると思います。福島町で出している部分については、そういったところの経費を。

○委員

例えば去年、干軒そばを札幌で出したよね。あれはここには書いていないよね。

○委員

ばらばらじゃないかという気がするんですよ。

○委員

今実際この中でこれが出てきて、何回か過ごしたわけだよ。これを出して、議論したのは初めてだよ。当然、何箇所か動いているものだろうと思ったやつが急にB評価で来られても、じゃあ去年と今年どう変わったのかって。

○事務局

今回、評価してもらうのが初めてなんです。

○委員

前回は点数付けしてBだったわけですよ。それで今回たまたま上がってきたから今皆言うけど、今までじゃあ3年間ほっといたのかってことなんです。それで、聞かれればなんか物をどっかで買って、どっかで売っているんじゃないかくらいしか話が出ない。

○委員

そういう意味合いでとらえたらさ、



そんな適当なと思うんだけども。

○委員

なんていうんだろう、僕たちがもう少し分かりやすいような説明があれば、当然A評価になってくると思うんだよね。

○委員

結局ばらばらでしょ、予算の付け方が。細かくたくさんあるから、ある程度まとめて一本化して、そこから出すというような格好にしたほうが、お金の使い道としては確かじゃないかという案が出ているんですよ。地場産の方からもそういった話もあるので、皆さんの話が出るのもごもっともだなと思って今聞いていたんだけども。

○委員

この種のことを結構あるんだよね。大項目は違うけれども。そうすると、そのお金を全部集めたらどのくらいになるのか、やろうとしていることはブランド化だとかってなっているんだけども、これを全部集めたら何百万になるのか。そうすると、組織を一つにして様々なことをやるとなると、お金のボリュームも大きくなるから、そうすると今、〇〇さんが言ったように、今回それじゃあ冷凍をかけるのはどうすると、業者に全部タダで来てもらって、泊まってもらって、全部タダでやってもらったんだから。そんなことなんて今の世の中ないんだけどもね。たまたま知り合いだから福島町のブランド化をするために手伝ってあげますよと来てくれたんだからね。そういうことも含めて、もうちょっと

ここのことは特産品だとかいっばいなんか検討しているみたいだけどね、副町長もちょうどいるからね、この辺一回何か見直して、なるべく組織を一つにしてね。

○委員

何かを研究するから、お金を80万じゃ足りないから、90万かける、500万かけるといったらまだ分かるんですよ。そうじゃなくて80万もらったから、それをいかにして年内に消化するかということを考えているわけですよ。

○委員

まったく違う話で申し訳ないんですけども、昨日の渡島支庁の商工に行ってきたんですよ。商工の課長から何から皆私にアピールしているのは、福島はすごいと。何がすごいんだと聞いたら、JR東日本が福島の商品を、ハンカチなんだけれども売り出していると。それも東京駅のデパート。何かというと、するめ~のハンカチ。カタログをもらってきたけれども、凄いもんね。だから、そういったものと話がつながれば、速効性というかね。

○委員

地場産のほうでも、それはいいですよといって観光協会に組入れて、観光協会の方でという話はないわけではないんです。

ただ、役場の予算だから、役場の許可をもらわない限りは動くことができないんだからね。今日はいい機会だから。

○委員

俺は、お金をかけることは大いに賛成なんだ。だから、かけてほしいのよ。こういう研究をするから90万はほしいとか、そういう積極的にやってくれるんだったら、予算の付け方もあるけど、1年通して80万をどうやって使ったらいいかなというんだったら。

○副町長

それはうちの方では、付けないというわけではないんですよ。今皆さんおっしゃるようにばらばらなんですよ。ここの研究会、ここの物販、だから確かにおっしゃるように、1つにしてやったらとそういうことも考えていければいけない。

○委員

今話を聞いていると、D評価になるのかなと思うんですよ。先日、研修に行ったところで、こういう名称で地場産業開発センターという組織なんですよ。

そこではお菓子を作っていたんですよ。色んな業種の方が集まって、味を決める人とか、お菓子の型を決める人、箱のパッケージを決める人とか、印刷の柄を決める人とか、色んな業種が集まって、何回も集まりながら作ったんですよ。やっぱりそういう組織じゃないと駄目だと思います、この組織は。だから、動いてテーマを決めて、例えば、これを今年度は作るということでテーマを決めたら、そういう色んな人が集まって、色んな意見を出してやっていくということが開発の会議なんですよ。だから、この予算でいけばもっと実はかかるかもしれません。

初年度は実績がないから少なくともいいかもしれないですけども。

○委員

評価ですから、うーんという感じにはなるんですけども。

○副町長

現状のまま評価してもらって、意見としてね。

○委員

当然、Bだろうけれども、それが統合が起こることによってA評価に変わるんだよね。将来的には道はないような気はしますけれどもね。

○委員

だから、評価は別にBでもいいんですよ。ただ、うちに求められているのは、コメントの部分ですよ。

○委員

だから、さっきと同じでやなぎの件の追悼はそれはいいよ。将来の子供たちに戦争とは何か教えるところまで持っていかなければならないというのと同じで、これも同じなんですよ。今回だけで言えばBかもわからないけれども。

○委員

考え方は今言ったように、様々な目的で動いてもらう組織ってあるから、その辺を一つに集約して、組織をなるべく一本化して、そうすると人間もダブらないで済むわけですよ。

○事務局

あれですかね。B評価ということで、今言ったような形で施行体制というか、組織の再構築を。

○委員

再構築でしょうね。なんとなく、今80万やるからあなた頑張ってるねと、それで責任逃れしている気がするんだよな。

#### ○事務局

---

よろしいですかね、それではB評価ということで。

コメント的には施行体制の再構築を図って事業を拡充していく体制を作るというような。

あとは、本日B評価であったのが、青函トンネル記念館管理運営費というのが、次のページですね。

これがなぜB評価になったかという、集客が落ちているというようなことで、その部分が一番大きかったんですね。それで、2次評価の部分につきましては、やはり入館者が減少傾向にあるので、展示物だとかそういったもののリニューアルをして、リピーターを確保するというようなことが必要なのではないかというような、意見が出されていました。

#### ○委員

---

それについて、いいですか。建物を建てる時の議論に参加していたんですけども、私は建物を建てなくてもいいという考えで、ようは運営する人、学芸員とっていますけれども、そのレベルの高い人がいれば、いくらでもトンネルの宣伝はできるんだよという話をしたんですよ。

だけど、行政サイドとしては予算を付けて箱ものを建てて終わりということになりましたけれども、ここで一番肝心なのは、そこだと。ソフトをど

う展開できる人がこの町にいるかということがすべてだと思います。いくら、文章でリニューアルと書いていたってね、客が求めるものを提供できるかどうか問題なわけだから、そこに通ずる人が居るか居ないかによって変わってくるんですね。人材育成の問題になるとは思うんですが。

#### ○委員

---

ようするに、発信力の問題になると思うんですよね。

#### ○委員

---

あそこを作っている時に、藪内町長のときに、松前にいた先生がいるでしょ。先生を通して、学芸員を一人連れてきたんだよ。ここができる前に学芸員を入れなければ駄目だよって。そうしたら、断られたんだよ。だから、会長が言っていた通りにやっていたら、また違った部分で、トンネル記念館があるかも分からない。でも、経緯はそういう経緯です。町でいらなかったんだから。

#### ○委員

---

ようは、肩書きだけのことを言っているのではなくて、優れた人のことを言っているんですよね。だから、そういう人を連れてくると、また別の展開になると思います。

#### ○委員

---

なったでしょうおそらく。本職だから、仕事としてやるんだから。だから、工程になっているのさ。やっぱり器ばっかりいいものを作ったって、それをどうやって回していくかという能力のある人がいなかったら、今の時代だ

ったら引き抜いてくるとか、そういうレベルだと思いますよ。

○委員

話がそれますけれども、同じ町づくりでもこの間みたく、若い兄ちゃん姉ちゃんいるでしょ、あの子たちにあなた達だったら何を使うって聞いてみたら？このメンツだと、たぶん似たりよっりの感覚しか出てこない。

○委員

だいたいこれは、あの建物を建てる時に、町民の話の時には、無理だろうというのが大半だったんですよ。一回入ってつまらないとなったら終わりだと。とりあえず一回は入りますよ、だけどリピーターは、学芸員がいて説明することによって、リピーターが望めるのか、今色々なイベントをやってくれるとか、学芸員の中でも違う学芸の芸が入るんじゃないかと思う。

○委員

その建物を、今の科目の建物だけを活かして、その範囲内で何でもやれと言うんだったら、それはリピーターも進歩も何もありませんよ。でも、学芸員というのは建物だけじゃなくて、あれだけの敷地をすべて利用して、色々な事をやると思うの。それが、仕事だから。

○委員

だから、その学芸員の中でも色々な種類があるよね。来た人に説明をする学芸員もいるし、こうやってやれば、集客をできると考える学芸員が少ないんだよ。

○委員

それを見つければいい。

○委員

学芸なのか、芸人なのか。そういうのはよく分からないけれども、学芸員というのは、来た人に説明をする人であって。

○委員

ようは、集客するためにはどうしたらいいかということですよ。芸人を置いていけばまた違う形になるだろうし、それも今後大変な部分だよ。大きな新幹線を子供向けにおくとかさ、色々な形のものができるけど、はたしてそれでリピーターが取れるかどうか。一回は見に行くけれども、その次はどうか。一回でも来てくれれば成功だといふのであれば、大きい新幹線を置いたって、絶対一回は見に行くよ。

○委員

言っていることはよく分かるんです。ただ、建物に対してトンネルだけでなくたって、スカイツリーであろうと何であろうと、よっぽどでなければ2回は見に行かないんですよ。自然というものを相手にした観光というのは、四季によって変わってくるから、何回でも行きます。建物というのは、1回見ると、なかなか2回、3回とは来ないから。難しいんですよ。

○委員

ようは、1回でも見てくれるようにすればいいという考えなんですか？

○委員

1回見てもらって、その結果を口である程度コマーシャルをやって、プラス何人という格好になればいいなと

思うんだけど、今の場合だと一回見た人があんなところ見に行かなくてもいいやというような、こういうふうな格好になってくるわけさ。

○委員

面白い考え方でやれば、古い新幹線を2~3mでも動くようにして、子供たちを乗っけてやれば、ぎゃーっと騒ぐだとかさ、来させるのは簡単だけど、それを口コミで広げるのは色んな今の時代の情報通信だとか、やっていけば、桜目当てで来ていても必ず寄ってくれるというような。

○委員

その新幹線にお金がいくらかかって、集客がいくらとおおよそ計算したら、元は取れるかな？アイデアはいいんだけど。そんなにお金をかけないで、リピーターでも珍しくでも、面白いと思わせる何かを作ったらいいんじゃないですか？

今は新幹線ブームだったら、新幹線を上げて子供を乗せれば、というアイデアが悪いということではないんだけど。

○委員

こういうことをもしあれだったら数字で言いますか。今これ、管理費だとかなんとかで836万2千円かかっているわけです。これが入場者数と、入場料がいくらだって書いたらはっきりするんです。年間の入場料がいくらで、これだけ収入はあるんだけど、これだけ出ています、いくら赤字ですとなったときに、初めて分かるけれども、これ書いていないでしょ。

これをはっきりすれば、もう少し鮮明になってくるわけです。今漠然とした話しなんですよ。なんか少ないなという。

○委員

建物自体が商工会が絡んでくるから、ストレートには出ないよ。

○委員

入館料は出るはずでしょ。

○委員

もう一つ言います、横綱記念館については、これは二大横綱が出たんだから、福島町の文化としてやっているはずですから、トンネル記念館もそういう趣旨でやるのであれば、そのところはあんまり言ってもしょうがない。

○委員

横綱記念館は黒字ですよ。

○委員

あっちはリピーターが多いと聞きました。

○委員

だから、青函トンネルにこだわった記念館としてのリピーターを期待しているのか、それとも建物の存続を考えていかなければならないのか、という部分にもなりますよね。

○委員

トンネル記念館しか出ていないですけれども、リピーターは無理ですよ。

ああいう箱ものの中に入っているのって1回見て頭の中にあれしたら、中は何も変化がないわけですから、見に行きたいとは思わないんですよ。だから、リピーターを期待するのは無理なんですよ。

○委員

発想の転換で、そのリピーターが今の状況では無理というのは私も認めます。ただ、桜の時期になったら目の前を観光バスが何台通ります？仕事で松前に行くとき観光バスがずらっと並ぶんですよ。あの観光バスを、ここに、ようは観光ツアーで来るわけでしょ。その中にここを組み込んでもらうように働きかけはしていますか？

○委員

しています。修学旅行なんかでも声をかけているんですよ、寄るように。たとえトイレに入るだけでもいいから、寄ってくださいと言ったらそこに寄る時間というのがまず作っていないのが一つ。じゃあ作ってくださいと言ったところで、だいたい修学旅行のバスって5～6台来るんですよ1回に、停まる場所がないって言われた。バスが停まる場所がないって、横綱記念館なら2台しか停められないでしょと。だから、ある程度の駐車場というものを確保しなかったら、トイレにでも何でも寄れないから、通過してしまうと。だから、そういう施設というのを作る時に、やっぱり考えるべきなんだよね。大型バスが最低でも10台位停まれるスペースだとか、乗用車は200台位停まれるとか、青森なんて行けば分かりますよね。大型バスが30台も40台も停められるスペースを作っていますよね。

我々の道の駅というのは、北海道で3番か4番にできた古い道の駅だから仕方がないですけど、今は観光バス

とか何とかそういう施設に停まれるようになってきているから、そういう施設じゃなければ駄目なんですよ。今は道の駅は全部飯も食えるし。

○委員

観光ルートに入る余地はもうないんですか？

○委員

ただ、よく通る人に聞くんだけど、道の駅ってどこっていう話になるんですよ。〇〇さんがいうように、最初のうちに道の駅を造るって手を挙げたものだから、松前の道の駅とかは後々だから。江差もそうなんですね。そんなに、新しくないんですね。最近できた道の駅はツアーができるくらいですから、道南でも。

○委員

逆に、道の駅って今横綱記念館の方が道の駅だよ。本来道の駅はトンネル記念館の方が道の駅のような大きさだよ。

○委員

ただあれ、簡単に移動できないんですよ。

○事務局

どうですかね、今の意見をまとめると。

○委員

青函トンネルだけじゃなくて、たとえばここで言ったら、海底トンネルを学べるような。子供たちが楽しく学べるような設備はないんですか？

○事務局

パソコンでできるのは若干はあるんですよ。

○委員

それと、海底トンネルの一番深いところに冷泉が湧いていて、お風呂の浴槽に貯めて、そういうものも何か活用をしたいなど。

○委員

トンネル記念館の前にほくでんがあるんだから、協力をしてもらって、地熱発電でもいいし、色んなそういうのをほくでんでやっていますよってああいうのをやってもらって。

○委員

評価はBはBでもいいと思うんですけども、リニューアルだけじゃなくて、もっと違う方向性を考えるべきじゃないのかなと思うんですよ。

トンネルというのに特科するのであれば、たとえば鉄道模型のファンの人にアイデアを出してもらうように貸し出すとか、あのスペースをね。そういう人達に接触してみるとか。

○委員

今のかまぼこ型のトンネルの2ヶ所あるところに、車でどちらから来ても、新幹線が飛び出すような絵がほしいなど思っているんですよ。

○委員

何でトンネル記念館にセグウェイがあるのか。あれはちょっと、何か方向性があちこちに向いちゃっているから。

○事務局

3次評価の評価としては、Bという評価にして、今おっしゃったような意見、単純にリニューアルということだけではなく、方向性を考えるというよ

うなことで整理をしたいと思いますので。Bの3項目が終わったんですけども、あとは、A評価というようなところで、特段この事業に対してこれだけは言っておきたいというようなところでは、今もし何もなければ3次評価をAとして、継続というようなことになるんですけども、特段ちょっとそうじゃないというような御意見があれば、お伺いをしたいなと思うんですけども。

○委員

P21の女性特有のがん検診推進事業費ということで、A評価になっているんですけども、現状のままで事業継続となっていますけれども、満足度というかそういうのは、きちんとなっているのかなという気はするんですよ。案内を出して、受けたかったら受ければというくらいになっているような気がするんですよ。どのくらいの率で利用されているのか。そういうところまできちっと把握をして、足りなければ補っていかなければならないし、多ければどこかと共有して、事業をまとめていくというのにも必要じゃないかと思うんです。ただ、やっていけばいいやというような部分が何となく見えているんですけども。

○事務局

P21の活動評価と成果指標のところなんですけど、評価はいいと思うんですよ。ただ、これは乳がんの検診見込数ですから、予算を立てた時の人数はこれくらいだろうと、これくらいの方が受診してくれるだろうというよ

うな見込みに対して実績が例えば173人あったり、177人あったというような形のもので、実際に例えばもっと本当は受けなければならない人というのは居るんですけれども、どちらかといったら190人をもう少し増やしていくような方策というか、それは必要だと思います。

○委員

ようは、簡単な言い方をすると、受けといてよかったわという声が少ないんじゃないかということなんです。函館出てどうのこうのじゃなくて、ちゃんと受けといて、町がやっていることに声がないと事業はどうなのと。

○委員

私はいつも受けている人間なんですけれども、そういう声はどこへ出せばいいんですか？

私はこれは毎年受けているんですよ。ついこの間も受けてきて、非常に助かっています。さらに、無料で子宮がん検診とか、ここにも書いてありましたけれども、5歳刻みで無料の券を配布してくれたりとか、あらうれしいわ、絶対行かなきゃとか。

○委員

だから、そういう声が主にリピーターを増やしていくんでしょ。

○委員

どこに出せばいいの？一般の人は。

○委員

ピンクリボンだけ？ああいう活動。そのピンクリボン活動とか、そういったものは福島町ではやっていな

いの？

ピンクリボン活動は歌を歌って集まったりして何かアピールしているよね、がん検診は絶対やったほうがいいよ、特に女性特有のやつはとかってテレビも宣伝をしていると思うんだけど、福島町はピンクリボンの活動というのは全然ないので、町にお願いして、どうやったらピンクリボンの活動がこっちに波及してくるのかとかさ、それだったらそのピンクリボンの方からも発信をとかそういうのもしてもらえないんじゃないの？

○委員

私はがんをやった経験者の人を全国的に見ると、出ているよね。

○委員

その人が先頭になって、その地区の人をいろいろ募って何かやったりしているから、そういったものをやることによってもう少し関心度を持たせるとか、そういう部分も考えたほうが。

○事務局

このところについては、一応〇〇さんのほうから、意見はいただきましたけれども、評価の部分についてはAで、コメントの方は特段。

○委員

Aだからオッケーよじゃなくて、Aだからもっとやらなければならない、Aだからここで満足しましようというのをきちんと出していかなければいけないでしょということなんです。

○事務局

その部分については、担当の方にもこういった意見があったというよ



うな形で伝えるような形にしたいと思います。

○委員

これは、委託ってちなみに小笠原さん？

○事務局

女性の方につきましては、函館だとかでないといけませんので、そういったところに行ってもらおうという形になります。

あと、ございますでしょうか。

○委員

P5災害対策費、というのでA評価になっていますけれども、個別無線の整備など、事業の拡充を検討すること、となっていますけれども、本当にそれだけでいいの？という気がするんですよ。自分も具体的な内容のものは出てきてないんですけれども、木古内町だとか、知内町だとかそういうところから見ると、かなりちょっと出遅れているのではないかなと。去年も出ていましたけれども、さあ逃げようかという場所の整備ができていないとか。

○委員

あと、毛布とかも全然あれだってね。

○委員

だから、福島町がなぜ遅れるのかと考えれば、簡単な話は災害が一応シミュレーションであってもこの福島町の津波は3mか4mの世界でしかないし、ここに地震の断層が走っているかといえば走っていないし、松前までで止まっている、こっちより向こうは知内よりも向こうにある。ということは、災害は当然来にくいだらうから災

害に対してのあれは遅れる形になってくると思うよ。だから、どうしても出遅れ感はあるんだけど、どこに逃げればいいのか、あそこに逃げればいいのかというけれども、実際それもまだ決めていない状況だから、町の方は早急に進めていくという話をたしかしていたはずだよ。

○委員

災害費というのはいくらお金をかけてもキリがないんだ、人の命を守ることだから。最低限全国レベルくらいの整備はしてあげなければならないですよ。

○事務局

このところは、津波避難計画ということで、途中で止まってはいますけれども、その各町内会の会議で、避難場所の検討だとか、そういった説明をまた再開するというにしております。防災無線の部分については、いろいろ聞きづらいだとか、色々ご意見がございますので、そのところについては、対策を講じていくような形で色々今検討中ではあります。

○委員

対策について提案があるんですけども、うちも何を話しているかほとんど9割9分分からないんですね、窓を開けてもね。ただ、音が出たということは、何かの合図が、伝えるべき合図が来ているなということが分かるわけだから、そのあと例えば持っている人もいない人もいるけれども、パソコンで町のホームページを見に行けば、何かもわもわと言っているやつが

書いているとか、もしくは今携帯の時代だから、携帯に町の発信が登録をしておけば来るみたいなのにならうにしてもらえば、今持っている機材で一部の人にはなるけれども、すぐできることだと思うので。

○事務局

個別に津波が起きそうなところだとか、色んなところだとか避難訓練はやってはきたんですが、はたしてそれだけでいいのかというようなことで、自分が身を守って逃げるというような形を取らなければならないというようなことになると。

○委員

全くこれは皆さんの意見と反対になるかもしれないんだけどね。それだけ、災害に対して福島市民が意識が薄いということは、住んで良かった町なんですよ。過去に大災害もないってことは、住みたい町、住んでよかった町なんですよ。それをあおり立てることはないでしょ、あえて。東日本がどうだとか、あれは震度7とか6強でしょ。福島はその経験もなければ何も無いわけですから。断層もないんだし。

○委員

だから、無線は流れるんだから、それくらいはやってもいいんじゃないですかということなんですよ。

○副町長

今の防災無線の話は、皆さんのご意見をそれは何としても。

○事務局

もし特段なければ、A評価のところについてはA評価のままでというよ

うなところで3次評価をまとめたいと思います。

今日の評価の結果につきましては、町の方の行政評価としては、この3次評価で終わりです。ただ、議会の方にこれを提出して、議会の方は平成23年度の決算を審議するに当たって、これも参考にしながら審議するということとなりますので、取りまとめをしたものを9月の議会の方の資料として、提出をするということになってございますので。

○委員

議会の方の評価はいいんですけど。

○事務局

議会の方の評価は、議会でこれを基に今度また評価をするという。

○委員

雰囲気はAとか、Bとかいうのはやめてね。俺が言っているのは、ここでコメントを載せたのは、そういう意味なんですから、だからちゃんとした理由付けをして、AとかBとか評価をしてくださいねということなんです。

○事務局

あと、何もなければ今後のまちづくり推進会議のスケジュールということで説明をしたいと思います。

○事務局

スケジュールというか、前年度の末に皆さんの方で検討をしてもらっていた、提案の部分で一応スピード感をもってやるようにということで、重々聞いていたんですけども、なかなかそれが進めない具合で、今①②ということで、ふるさと応援基金の提案をし

た内容の部分で、皆さんの提案を含めて、あと、各課に紹介をした部分ですね、今これで上がってきました。今とりあえずこの場で何をするという話にはならないんですけども、こういう格好で上がってきていますので、逐次皆さんのほうに、情報提供をしながらアドバイスをもらいながら肉付けをしていく作業を年内に終了させて、25年度からという約束になっていますので、それを行う格好でこれから進めることになっていますので、とりあえず情報提供ということで、付いている内容も素案という格好になっています。

基本はこうですけども、変わっていく部分も肉付けした後に出てくると思いますので、とりあえず情報提供ということで、ご紹介させていただきます。以上です。

スケジュールの方については、この内容を含めて今年まちづくり基本条例ができて、次の年で4年になりまして、今年が見直しの時期になっています。まちづくり基本条例の見直しについての検討を10月の頭くらいに一度やるような格好で、近々のまちづくり推進会議の方は考えておりますので、またその際のご案内が行った時にはお願いをしたいと思います。

また、それとは別の方になるんですけども、9月の末に町民合同フォーラム、若い人達とまちづくりの方の委員会もありますので、都合が合うのであれば、協力をお願いしたいと思います。以上です。

## ○事務局

---

今日すべての案件が終了しました。その他の方も終了いたしましたので、皆様から何もなければ、会議を閉めたいと思います。すみません長時間ありがとうございました。